

2010年6月24日

産構審政策手法WG

諸富さんへの質問

山口光恒

- 1、今日の議論は日本の削減目標如何に関わりなく当てはまるのか
具体的には
 - 1) 14枚目で長期的に排出削減を進めるための費用効果的手法とある。
例えば90年比25%減とのCapをかければ排出量は減るのか
 - 2) 日本のみが厳しい目標でも場合でもオークションは可能か

- 2、EUの実例（上記1、の続き）
 - 1) 競争力への影響—22枚目明日香さんの研究（炭素価格3000円）、23枚目無償配分で利潤増加（排出権価格はじめの2年間で18ユーロ）に相当する日本の2020年削減率は2005年比-4%以下。仮に炭素価格が500ドルでも同じことが起こるか
 - 2) 日本の電力価格は限界費用で決まっているのか（23枚目）

- 3、何故短期間に絶対値で削減が必要なのか。トップダウンだが諸富さんの本には「科学の要請」とか工業化以降2℃という言葉が出ているが、2℃目標の根拠が出ていない

- 4、政策手法としての自主行動計画（或いは自主協定）についての見方は？
日本は恵まれている。イギリスは13/44業種が10年先の目標を2年で達成

- 5、2つの経済ビジョン 短期・静学的 vs 長期・動学的 4枚目
IPCCは大間違いか
削減が進む程コストが上昇、UNFCCC第2条 過小対策と過度の対策

- 6、日本の国際競争力
日本企業が短期の利潤極大行動に走ったらどうなるか

- 7、EU ETS と技術革新
技術革新は起こったか、起こらないとしたらその要因は何か